

第五十三回句会 俳句

【高点句】

- ☆春水をとろりと鯉の扱とき混ませて 〈明美〉
☆梅見上げまた手を繋ぐ老夫婦 〈茂〉
☆木の影の形のままに斑雪 〈撫子〉

【各自一句】

- ・福寿草福を呼ぶよに人を呼び 〈青蛙〉
・静けさが染みわたりゆく大試験 〈隆司〉
・立ち止まる雪解雫の案内板 〈莫院〉
・蠟梅の香り漂う小径かな 〈雄記〉
・冴え返る大樹の先に蕾あり 〈伸子〉
・もう喜寿か傘寿ははるか梅開く 〈童心〉
・水仙の波打つやうに風のまま 〈明美〉
・はだらの御苑同窓の友集う 〈安津子〉
・蠟梅のステンドグラスに透く光 〈一衣〉
・浅き春余命を語る友の笑み 〈茂〉
・足裏に春の土踏むはひふへほ 〈千恵〉
・猫歩くベンチに残る春の雪 〈撫子〉
・四阿に佇み眺む春の水 〈緑〉
・ビルの影長々写し春の池 〈眞澄〉
・福寿草光孕んで開ききり 〈一馬〉

*以上、43句（3句ずつ14名と1句1名）より、選句は16により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）